



2025年度 第2四半期 決算説明資料

長瀬産業株式会社 (証券コード:8012)
2025年11月6日 公表

エグゼクティブサマリー

2025年度 第2四半期決算

- ➡ 商社業は電子・エネルギーや生活関連が好調な一方、モビリティが低調に推移し、減益
- ➡ Prinovaグループは、商社業については食品素材市況が下落したものの、販売数量増加により好調、製造業はSolutions事業を中心とした新規案件の獲得や、Nutrition事業における効率化の推進により回復基調となり、全体として好調に推移
- ナガセケムテックスが製造する変性エポキシ樹脂の販売は、AIサーバー用半導体向けが堅調に推移
- ナガセヴィータは食品素材の国内販売が採用拡大したこと等により好調に推移
- ROIC経営を追求し収益性が向上、売上総利益率を0.7ppt改善

2025年度 通期見通し

- ➡ 事業ごとに好不調はあるが、合計として当初想定を上回り上方修正(売上高～経常利益)、各段階利益で過去最高益を見込む
- ➡ PrinovaグループのNutrition事業は効率化を推進し、コスト削減が想定以上に進捗
- ➡ 自動車関連ビジネスは一部のEV関連顧客の生産台数減少により、機能素材・機能部品の販売が想定を下回る
- 半導体関連ビジネスはナガセケムテックスのAIサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂販売が米中関係により、市場の先行きが不透明であるものの、半導体材料の販売がグレーターチャイナ向けを中心に想定以上に好調に推移しており、概ね想定通り

中期経営計画 ACE 2.0 について

- 注力領域フード・半導体・ライフサイエンス分野の製造機能におけるM&AのPMI活動が順調に進捗
- 改善領域における取組みを推進

NAGASEの各セグメントを取り巻く事業環境



業界	25年度通期に対する当初想定		上期の動向		下期の動向		セグメント
塗料	自動車用途は微増、建築用途は回復見込めず、全体として概ね横ばい		自動車用途は横ばい、建築用途は減少、全体として前期比減少		概ね上期並み		機能素材
半導体	AI関連需要の伸長、スマホ・PCなどの堅調な生産により前期比好調に推移		AI関連需要は堅調、スマホ・PCなども堅調な生産により前期比好調に推移		米中関係の影響によりAI関連需要に不透明感漂う。スマホ・PCなどは需要に落ち着きが見られる。		
スマートフォン	ハイエンドは堅調、ミドル・ローエンドは低価格スマホの普及により微増		ハイエンドは前期比堅調、ミドル・ローエンドは低価格スマホの普及により前期比微増		季節性もあり上期比微減で推移するが、通期では前期比微増		
OA・ゲーム (電気・電子機器)	概ね前期並み (全般的に需要及び樹脂市況は緩やかに回復)		全般的に需要は緩やかに回復したが、樹脂市況は低下傾向		概ね上期並み		加工材料
自動車	概ね前期並み (下期の自動車生産台数が伸び切らず、地域ごとに二極化が進み全体として横ばい)		地域ごとに二極化が進んでおり全体として前期比微減		概ね上期並み		モビリティ
医薬	概ね前期並み (添加剤、原薬、中間体の需要が堅調)		添加剤、原薬、中間体の需要が堅調		選定療養の導入によりジェネリック医薬品が増加していることもあり添加剤、原薬、中間体の需要が堅調に推移		生活関連
香粧品	最終需要地の拡大に伴う販売地域の拡大により、需要回復を見込む		最終需要地である中国の消費低迷や中国国内メーカーの台頭により低調		概ね上期並み		
フード	国内は前期並み、欧米は食品素材・ニュートリションともに緩やかな市場成長を見込む		国内は前期並み、欧米は食品素材・ニュートリションともに市場が成長		概ね上期並み		

・必ずしも業界の動向とは一致しません
・()内は2024年度の動向

目次

■ 2025年度 第2四半期決算概要及び通期見通しについて	P5～23
■ 中期経営計画 ACE 2.0 について	P24～32

<参考情報>

- ✓ 資本コストや株価を意識した経営
- ✓ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移
- ✓ 2025年度のキャッシュアロケーション
- ✓ 2021年度～2024年度の主要なキャッシュイン・アウト実績
- ✓ Prinovaグループの事業概要

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。

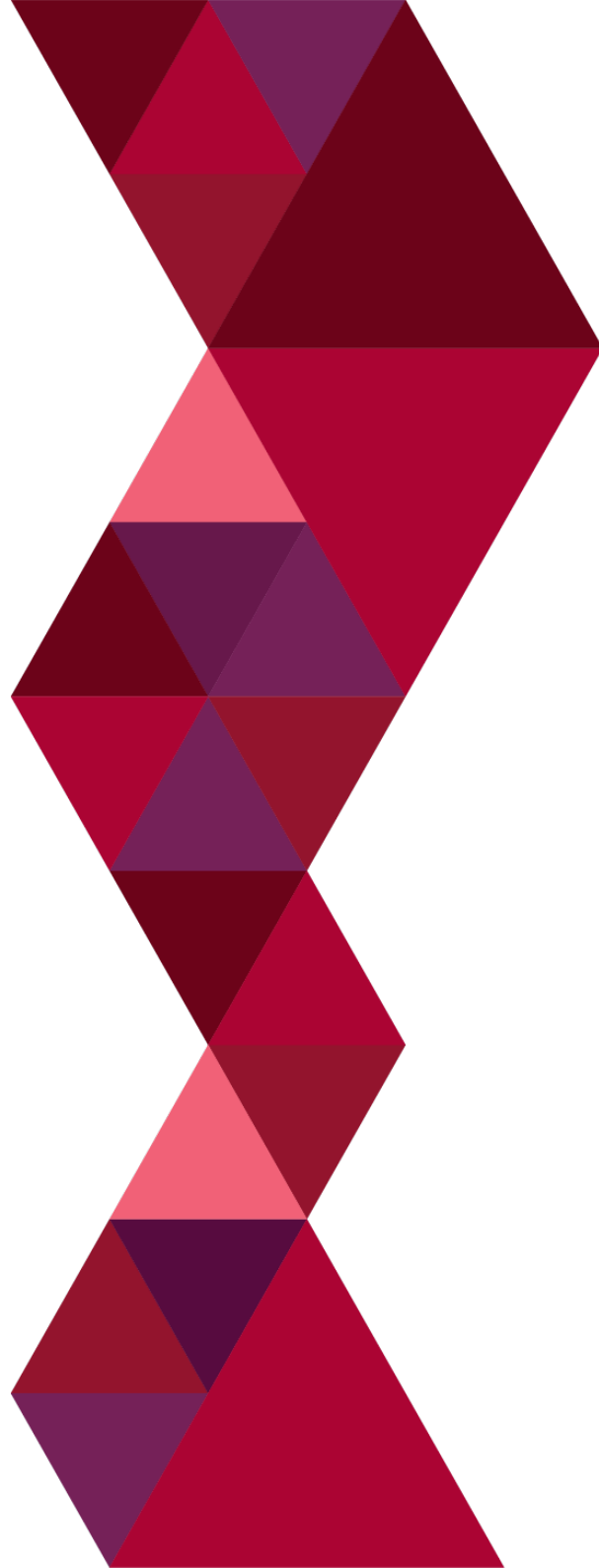
2024年度実績についても当該変更による組換え反映後の数値となります。

※ 製造は製造子会社の合計値となります。

※ 商社は長瀬産業および販売子会社の合計値に加え、その他・全社、連結調整を含めております。

2025年度 第2四半期決算概要 及び 通期見通し

■ 連結損益計算書	P6
■ 所在地別 売上総利益	P7
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P8
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P9
■ セグメント概況	P10～P14
■ 主要製造子会社概況	P15～P17
■ 連結貸借対照表	P18
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P19
■ 2025年度 通期業績見通し	P20～P22
■ 株主還元状況	P23



連結損益計算書

- ▶ 売上総利益は利益率改善に取組み、増益
- ▶ 営業利益はM&A関連費用計上や数理差異の償却にかかる退職給付費用増加等による一般管理費の増加があったものの、横ばい
- ▶ 四半期純利益は負ののれん発生益(約17億円)を計上したものの、2020年度に撤退を決定した中国でのガラス基板の薄型加工事業に係る事業撤退損(約△16億円)の計上や前年同期に投資有価証券売却益を計上した影響(前年同期比約19億円減少)等により、減益

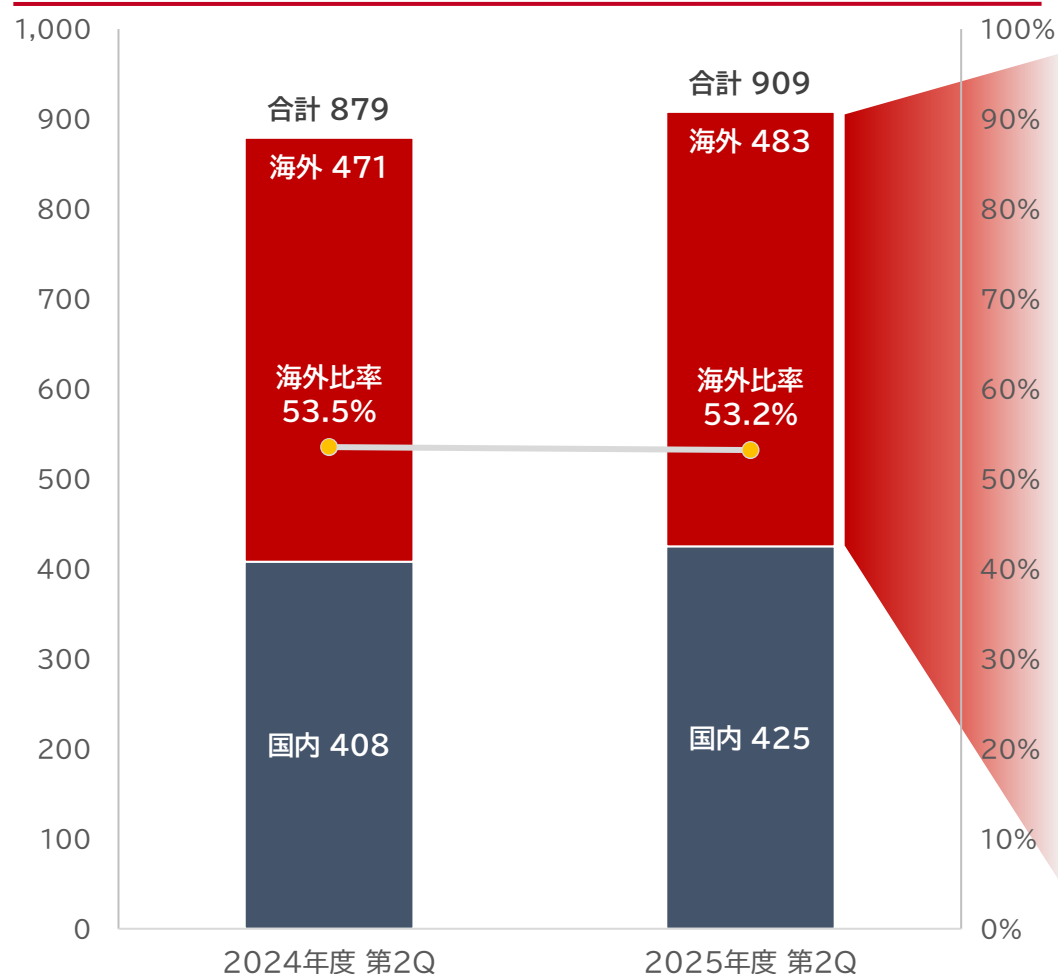
	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	4,809	4,797	△12	100%	9,550	50%
売上総利益	879	909	29	103%	1,810	50%
<利益率>	18.3%	19.0%	0.7ppt	—	19.0%	—
販売費及び一般管理費	669	698	29	104%	1,415	49%
営業利益	210	210	0	100%	395	53%
<利益率>	4.4%	4.4%	0.0ppt	—	4.1%	—
(数理差異の償却による退職給付費用影響除く)	192	212	19	110%	398	53%
経常利益	202	207	4	102%	385	54%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	159	150	△8	94%	315	48%
US\$レート (期中平均)	@ 152.8	@ 146.0	@ 6.8 円高		@ 143.0	
RMBレート (期中平均)	@ 21.2	@ 20.3	@ 0.9 円高		@ 19.0	

※ 為替の影響【売上総利益】△13億円【営業利益】△3億円
 ※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

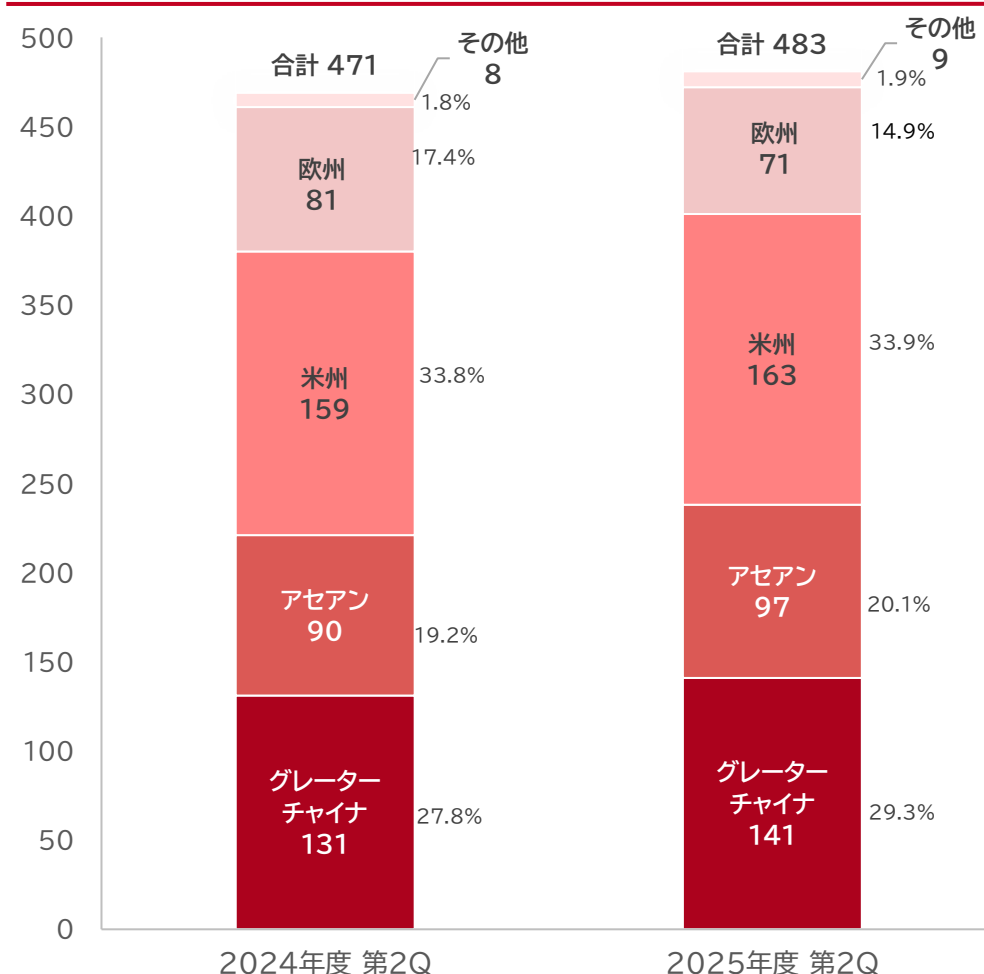
所在地別 売上総利益

- ▶ 国内は主にナガセヴィータの食品素材の販売増加やナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂の販売増加(輸出含む)により、増益
- ▶ 海外はPrinovaグループの欧州での食品素材販売の低調、円高影響等があったものの、グレートチャイナ、アセアンでの半導体関連ビジネスが好調に推移し、増益

国内・海外売上総利益(億円)



海外売上総利益の地域別内訳(億円)



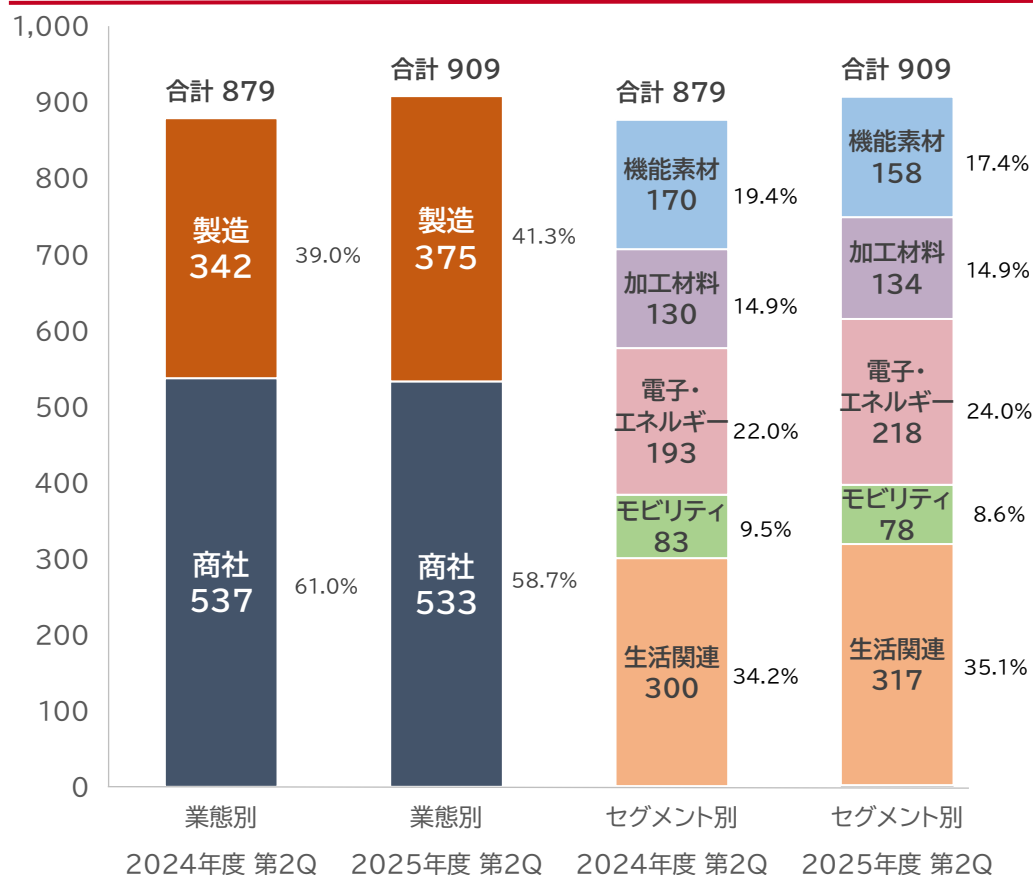
※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含んでおります。

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

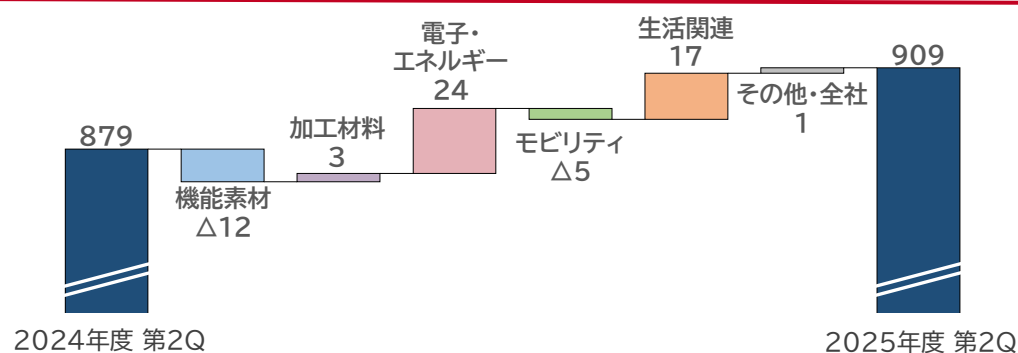
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 商社業は電子・エネルギーや生活関連が好調な一方、機能素材やモビリティの自動車関連ビジネス等が低調に推移し約4億円の減益
- ▶ 製造業は生活関連におけるPrinovaグループの製造業の回復やナガセヴィータの食品素材の販売増加に加え、電子・エネルギーにおけるナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂の販売増加等により約33億円の増益
- ▶ セグメント別では機能素材が減少した一方、電子・エネルギー、生活関連が伸長（詳細はセグメント概況にて説明）

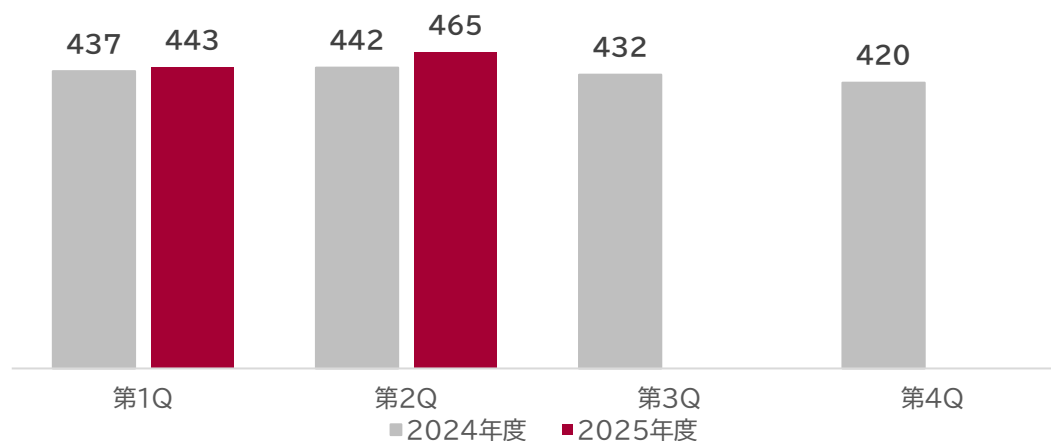
業態・セグメント別 売上総利益(億円)



セグメント別 売上総利益 増減(億円)



売上総利益 四半期推移(億円)



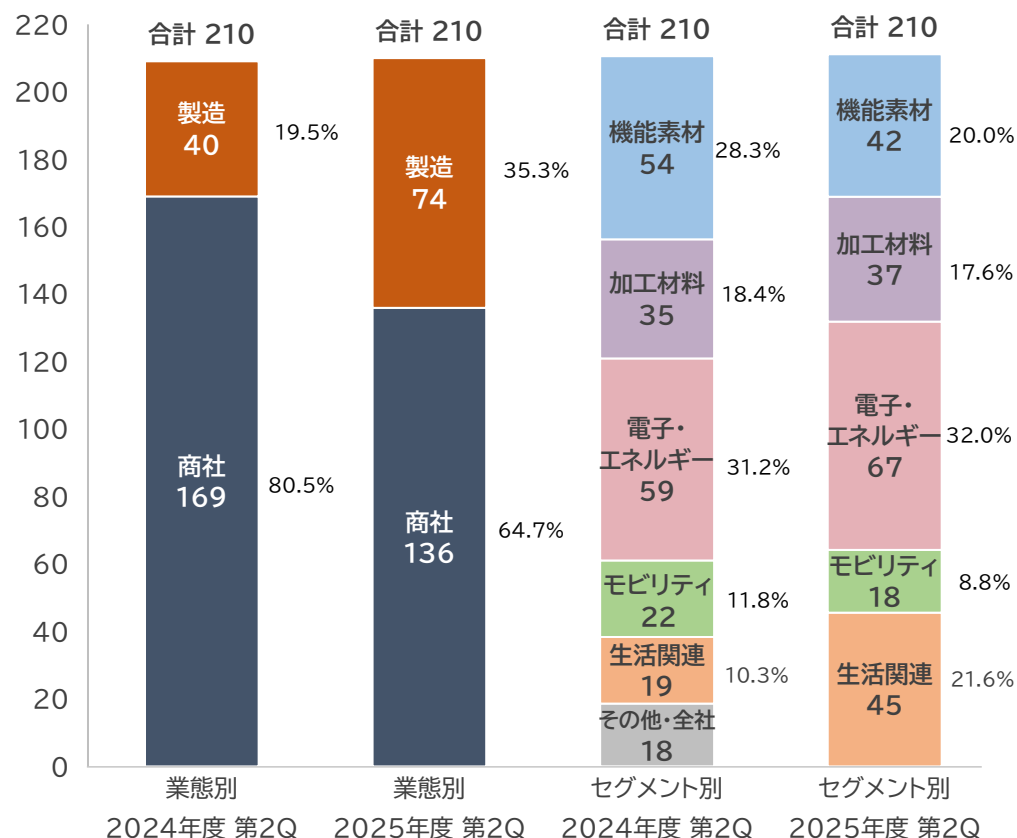
※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含めておりません。

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

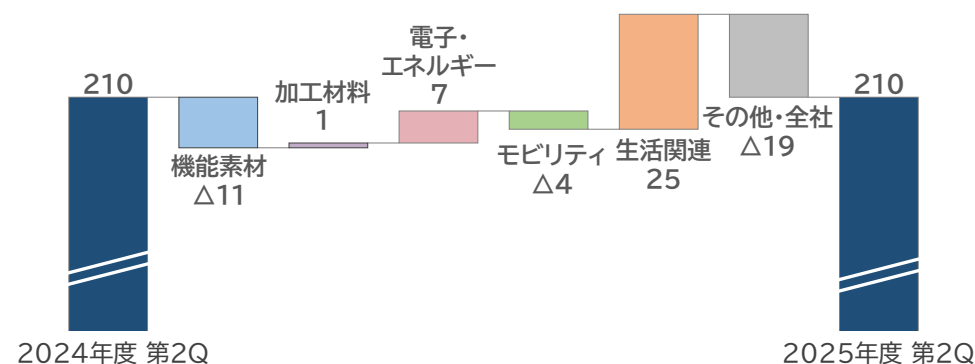
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 商社業は売上総利益の減少に加え、M&A関連費用計上や数理差異の償却による退職給付費用増加の影響により約33億円の減益
- ▶ 製造業はPrinovaグループで前第2四半期に計上した貸倒引当金(約13億円)の反動やNutrition事業の効率化推進に加え、ナガセヴィータの無形資産の償却が一部終了したこと等により、約34億円の増益
- ▶ その他・全社は主に数理差異の償却による退職給付費用増加の影響により減益
(数理差異の償却による退職給付費用:2024年度通期 約35億円(益)、2025年度通期 約3億円(損) 四半期毎に均等按分し計上)

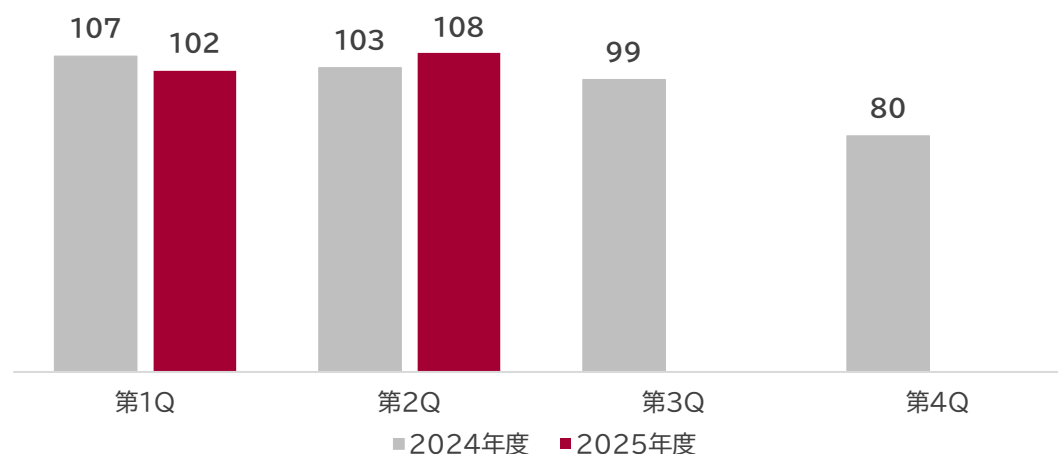
業態・セグメント別 営業利益(億円)



セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益 四半期推移(億円)



※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含めておりません。

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント概況 機能素材

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、減益
 - ・ 塗料原料の販売は自動車用・建築用の需要減少により減少
 - ・ 半導体材料の原料販売は横ばい
- ▶ 営業利益は売上総利益の減少を受け、減益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	(億円)	進捗率
							24年度実績	
売上高	当期	380	381			762	1,570	49%
	前期	405	388	372	370	794	1,537	
	増減率	△ 6.1%	△ 1.7%			△ 4.0%	2.1%	
売上総利益	当期	77	80			158	328	48%
	前期	88	81	79	75	170	325	
	増減率	△ 11.7%	△ 2.2%			△ 7.1%	0.9%	
<利益率>	当期	20.5%	21.0%			20.7%	20.9%	
	前期	21.8%	21.1%	21.3%	20.3%	21.4%	21.1%	
製造	当期	5	6			12		
	前期	6	6	4	4	12	22	
商社	当期	72	73			145		
	前期	82	75	74	70	157	302	
営業利益	当期	21	20			42	88	48%
	前期	29	24	20	17	54	92	
	増減率	△ 27.4%	△ 15.6%			△ 22.1%	△ 4.5%	
<利益率>	当期	5.7%	5.4%			5.5%	5.6%	
	前期	7.3%	6.3%	5.5%	4.7%	6.8%	6.0%	
製造	当期	1	2			4		
	前期	2	3	0	1	5	7	
商社	当期	19	18			38		
	前期	27	21	20	15	48	84	

【注力施策】

機能化学品事業部

- ▶ グローバルな調達力を活かした石化産業や市場の変化を捉えたビジネス機会の獲得
- ▶ サステナブルな素材やソリューションの提案
(生分解性バイオSAP、化学品共同物流マッチング、ミキシングコンシェルジュ等)

スペシャリティケミカル事業部

- ▶ 半導体業界における川上分野でのサプライチェーンへの貢献を通じたビジネス拡大
- ▶ フロー合成、MOF等、ユニークな技術を活用した事業創出

フロー合成 配管内で連続的に化学合成



長年の取組実績と知見を有すMiChS社へ出資

セグメント概況 加工材料

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ OA等電機・電子業界向けの数量減少により樹脂の販売が減少したものの、プロダクトミックスを改善させたことにより、利益率は改善
 - ・ ナガセルータックの工業用ホース・土木用パイプの販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	(億円)
売上高	当期	502	526			1,029	2,110
	前期	535	546	528	495	1,082	2,106
	増減率	△ 6.0%	△ 3.7%			△ 4.8%	0.2%
売上総利益	当期	65	69			134	270
	前期	65	65	67	63	130	261
	増減率	△ 0.1%	6.1%			3.0%	3.1%
<利益率>	当期	13.1%	13.1%			13.1%	12.8%
	前期	12.3%	11.9%	12.8%	12.8%	12.1%	12.4%
製造	当期	14	14			28	53
	前期	12	12	15	12	25	
商社	当期	51	54			105	208
	前期	53	52	52	50	105	
営業利益	当期	18	18			37	69
	前期	15	19	19	12	35	66
	増減率	14.5%	△ 3.2%			4.8%	3.2%
<利益率>	当期	3.6%	3.6%			3.6%	3.3%
	前期	3.0%	3.6%	3.6%	2.5%	3.3%	3.2%
製造	当期	3	3			6	10
	前期	2	2	4	1	4	
商社	当期	14	15			30	55
	前期	13	17	14	10	30	

(億円)

通期見通し 進捗率

24年度実績

【注力施策】

ポリマグローバルアカウント事業部

- ▶ グローバルブランドオーナーの生産拠点の変遷に伴い、メキシコ・インド等の注力エリアにリソースシフト



- ▶ 環境素材(自社品・他社品)の取扱い拡大
- ▶ グローバルでの事業運営の効率化、組織体制の最適化

製造子会社:東拓工業は11月1日付で社名変更

ナガセルータック株式会社

Root(根) + TAC

東拓工業の技術とものづくりのDNAを象徴する言葉



角型TACレックス(角型多条敷設管)
無電柱化の推進(電線の地中化)に貢献

セグメント概況 電子・エネルギー

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 半導体材料の販売が増加
 - ・ ナガセテムテックスの変性エポキシ樹脂の販売は、モバイル機器向けが低調に推移したが、AIサーバー用半導体向けが堅調に推移し、増加
- ▶ 営業利益はM&A関連費用を計上したものの、売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績						第2四半期	(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	通期見通し	進捗率
売上高	当期	415	431			846	24年度実績	
	前期	400	398	413	400	799	1,670	51%
	増減率	3.6%	8.3%			5.9%	1,613	
売上総利益	当期	103	115			218	434	50%
	前期	95	97	99	107	193	400	
	増減率	7.9%	17.7%			12.8%	8.4%	
<利益率>	当期	24.8%	26.7%			25.8%	26.0%	
	前期	23.8%	24.5%	24.0%	26.9%	24.2%	24.8%	
製造	当期	35	47			83		
	前期	33	35	34	48	68	150	
商社	当期	67	67			134		
	前期	62	62	65	59	125	249	
営業利益	当期	29	38			67	129	52%
	前期	27	32	28	34	59	123	
	増減率	5.8%	19.5%			13.1%	4.9%	
<利益率>	当期	7.1%	8.9%			8.0%	7.7%	
	前期	6.9%	8.1%	7.0%	8.6%	7.5%	7.6%	
製造	当期	9	15			24		
	前期	7	9	7	19	17	45	
商社	当期	19	23			42		
	前期	19	22	20	14	42	77	

【注力施策】

エレクトロニクス事業部

- ▶ 半導体市場における商材の拡充
 - ・ 国内生産の拡大を踏まえた事業拡大
 - ・ 欧米やインド等での事業拡大
- ▶ 最先端の電子機器向けビジネス開発

先進機能材料事業部

- ▶ ナガセテムテックスの製品を最先端半導体向けに販売拡大（LMCが最先端半導体向け封止材として圧倒的なシェアを誇る）
- ▶ a-SMCで次世代半導体向け封止材のデファクトスタンダードを目指す
- ▶ 半導体向け現像液の拡販と回収・再生事業の拡大



LMC: Liquid Molding Compound



a-SMC: Advanced Sheet Molding Compound

セグメント概況 モビリティ

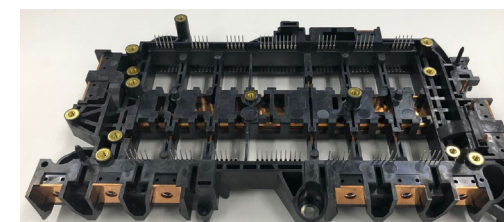
- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、減益
 - ・ 売上総利益の約半分を占める樹脂の販売は円高等の影響があったものの、数量増加により増加
 - ・ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が減少
- ▶ 営業利益は売上総利益の減少を受け、減益

四半期実績						第2四半期	(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	通期見通し	進捗率
売上高	当期	305	332			637	24年度実績	
	前期	321	338	343	317	660	1,300	49%
	増減率	△ 5.0%	△ 2.0%			△ 3.4%	1,320	
売上総利益	当期	37	40			78	△ 1.6%	
	前期	40	43	43	37	83	164	48%
	増減率	△ 7.3%	△ 6.5%			△ 6.9%	165	
<利益率>	当期	12.2%	12.3%			12.3%	△ 0.6%	
	前期	12.5%	12.9%	12.7%	11.8%	12.7%	12.6%	
製造	当期	—	—			—	12.5%	
	前期	—	—	—	—	—		
商社	当期	37	40			78		
	前期	40	43	43	37	83	165	
営業利益	当期	8	10			18		
	前期	9	12	12	7	22	42	44%
	増減率	△ 15.1%	△ 20.5%			△ 18.1%	42	
<利益率>	当期	2.7%	3.1%			2.9%	△ 0.9%	
	前期	3.1%	3.8%	3.6%	2.3%	3.4%	3.2%	
製造	当期	—	—			—		
	前期	—	—	—	—	—		
商社	当期	8	10			18		
	前期	9	12	12	7	22	42	

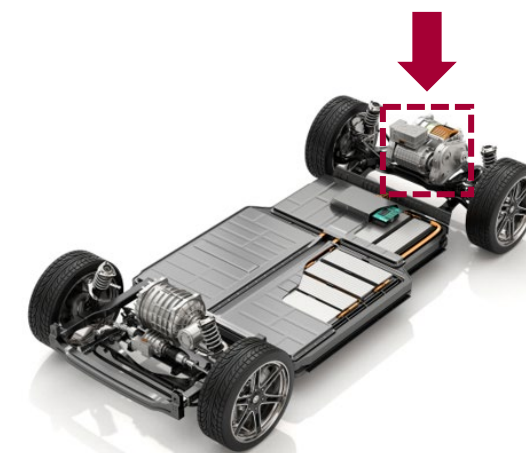
【注力施策】

モビリティソリューションズ事業部

- ▶ 電動化関連素材・部品の取扱いを一層拡充
- ▶ 北米・インド等の成長市場へのリソース投下促進



車載インバーター用金属インサート成型部品



セグメント概況 生活関連

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 中間体・医薬品原料の販売が増加
 - ・ ナガセヴィータは食品素材・香粧品素材の販売が増加
 - ・ Prinovaグループにおける食品素材の販売は市況が下落したものの、数量増加により、増加
- ▶ 営業利益はM&A関連費用を計上したものの、ナガセヴィータにおける無形資産償却の一部終了や、Prinovaグループの効率化推進等により、増益

四半期実績						第2四半期	(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	通期見通し	進捗率
売上高	当期	768	751			1,520	2,899	52%
	前期	728	744	712	685	1,473	2,870	
	増減率	5.5%	0.9%			3.2%	1.0%	
売上総利益	当期	157	160			317	612	52%
	前期	148	152	142	137	300	581	
	増減率	6.0%	5.4%			5.7%	5.3%	
<利益率>	当期	20.5%	21.3%			20.9%	21.1%	
	前期	20.4%	20.4%	20.0%	20.1%	20.4%	20.2%	
製造	当期	121	128			250		
	前期	116	120	107	99	236	443	
商社	当期	35	31			67		
	前期	32	31	35	37	64	137	
営業利益	当期	24	20			45	73	62%
	前期	15	4	11	3	19	34	
	増減率	61.5%	366.7%			130.7%	113.2%	
<利益率>	当期	3.2%	2.8%			3.0%	2.5%	
	前期	2.1%	0.6%	1.6%	0.5%	1.3%	1.2%	
製造	当期	19	19			39		
	前期	11	2	6	△1	13	18	
商社	当期	4	1			6		
	前期	4	1	4	4	5	15	

【注力施策】

ライフ＆ヘルスケア製品事業部

- ▶ 自社製品の拡販に国内外で注力
- ▶ 海外グループ基盤・拠点間の連携強化によるクロスセルの拡充
- ▶ バイオ素材の拡充
(NVI※1、NBIC※2のバイオ由来素材の創出
例：発酵技術で量産化を目指すエルゴチオネイン)
- ▶ Prinovaグループの製造の拡大

※1 ナガセヴィータ

※2 ナガセバイオイノベーションセンター

診断薬用酵素事業など
25年7月1日グループ入り

 **Nagase Diagnostics**

ナガセダイアグノスティックス株式会社



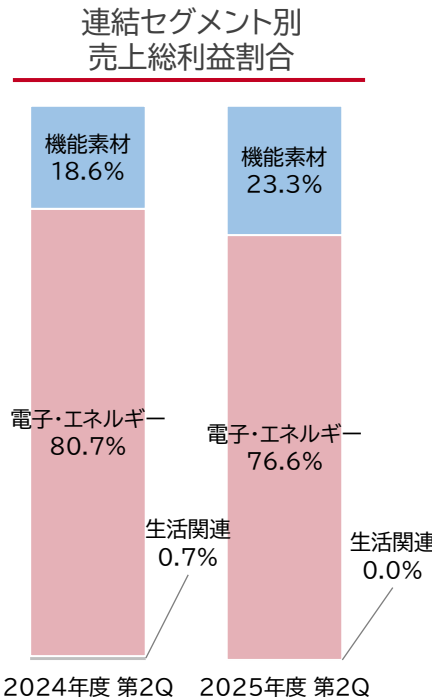
ナガセダイアグノスティックス株式会社の大仁工場

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

主要製造子会社概況 – ナガセケムテックス –

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 変性エポキシ樹脂の販売は、モバイル機器向けが低調に推移したが、AIサーバー用半導体向けが堅調に推移し、増加
 - ・ ディスプレイ向けフォトリソ材料の販売は減少
 - ▶ 営業利益は、研究開発費等の一般管理費が増加したものの、売上総利益の増加により、増益
- ※2025年4月1日付で機能性色素事業をナガセヴィータから移管

四半期実績						(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	通期見通し 24年度実績
売上高	当期	66	66			132	292
	前期	66	64	66	61	130	258
	増減率	△ 0.1%	2.9%			1.4%	13.3%
売上総利益	当期	23	23			46	103
	前期	20	20	22	21	41	84
	増減率	10.0%	15.7%			12.8%	21.7%
<利益率>	当期	34.8%	35.4%			35.1%	35.3%
	前期	31.6%	31.5%	33.9%	34.4%	31.5%	32.8%
営業利益	当期	7	7			14	36
	前期	7	6	7	5	13	27
	増減率	△ 2.6%	20.4%			7.6%	33.1%
<利益率>	当期	11.2%	11.0%			11.1%	12.5%
	前期	11.5%	9.4%	12.0%	9.6%	10.5%	10.6%



※ ナガセケムテックスの営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、商社業においてもナガセケムテックスのビジネスによる利益が計上されています。

主要製造子会社概況 – ナガセヴィーター

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 食品素材の販売は主に国内を中心に採用が拡大し、増加
 - ・ 香粧品素材の販売は、新規採用等もあり国内向けが好調に推移し、増加
- ▶ 営業利益は、基幹システム入れ替えに伴う償却費が増加したものの、売上総利益の増加により、増益
- ▶ のれん等償却費は、無形資産償却の一部終了により減少(通期影響:前期比約11億円の減少)

※2025年4月1日付でナガセケムテックスへ機能性色素事業を移管

四半期実績						(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	通期見通し 24年度実績
売上高	当期	86	85			171	365
	前期	86	87	92	83	174	350
	増減率	△ 0.3%	△ 2.7%			△ 1.5%	4.3%
売上総利益	当期	35	34			70	141
	前期	33	32	34	30	65	129
	増減率	7.6%	8.3%			7.9%	9.5%
<利益率>	当期	41.2%	41.0%			41.1%	38.8%
	前期	38.2%	36.9%	36.8%	36.1%	37.6%	37.0%
営業利益	当期	15	13			29	53
	前期	13	12	13	11	25	50
	増減率	16.0%	13.6%			14.8%	5.1%
<利益率>	当期	17.8%	16.3%			17.1%	14.5%
	前期	15.3%	14.0%	14.8%	13.5%	14.6%	14.4%
のれん等償却費	当期	4	4			9	18
	前期	7	7	7	6	15	29
	増減率	△ 40.5%	△ 40.5%			△ 40.5%	△ 38.4%
償却費負担後 営業利益	当期	10	9			20	34
	前期	5	4	6	4	10	20
	増減率	94.5%	105.2%			99.3%	67.8%

(億円)

通期見通し 進捗率

24年度実績

連結セグメント別
売上総利益割合

機能素材
0.7%

生活関連
99.3%

生活関連
100.0%

2024年度 第2Q 2025年度 第2Q

※ ナガセヴィータの一部の営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、商社業においてもナガセヴィータの一部のビジネスによる利益が計上されています。

主要製造子会社概況 – Prinovaグループ –

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 食品素材の販売は市況が下落したものの、数量増加により、増加
 - ・ 製造業はSolutions事業を中心にプロダクトミックスが改善し、回復基調
- ▶ 営業利益は、前第2四半期に計上した貸倒引当金(約13億円)の反動や、Nutrition事業の効率化推進による一般管理費の減少等により、増益

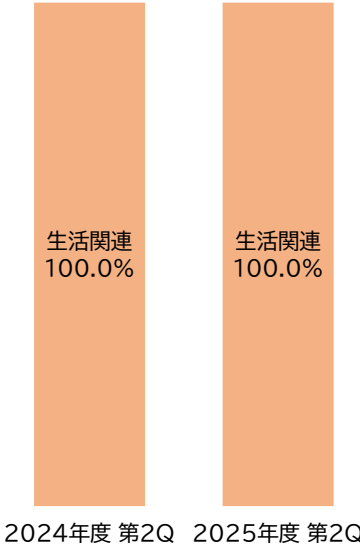
四半期実績						(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	通期見通し 24年度実績
売上高	当期	539	530			1,070	1,997
	前期	504	537	488	466	1,041	1,996
	増減率	6.9%	△ 1.2%			2.7%	0.1%
売上総利益	当期	82	86			168	320
	前期	79	79	72	65	158	295
	増減率	3.6%	8.5%			6.1%	8.3%
<利益率>	当期	15.2%	16.2%			15.7%	16.0%
	前期	15.7%	14.8%	14.8%	14.0%	15.2%	14.8%
営業利益	当期	16	19			36	49
	前期	13	0	10	1	13	25
	増減率	26.3%	4,289.9%			159.9%	89.9%
<利益率>	当期	3.1%	3.6%			3.4%	2.5%
	前期	2.7%	0.1%	2.1%	0.4%	1.3%	1.3%
のれん等償却費	当期	6	6			13	26
	前期	6	7	6	6	13	27
	増減率	2.6%	△ 7.6%			△ 2.6%	△ 5.7%
償却費負担後 営業利益	当期	9	12			22	22
	前期	6	△6	3	△5	△0	△1
	増減率	50.7%	-			-	-

(億円)

通期見通し 進捗率

24年度実績

連結セグメント別
売上総利益割合



※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

連結貸借対照表

▶ SACHEM社のアジア事業、ナガセダイアグノスティックスの取得にあたり、有利子負債を一部活用

(億円)

	2025年3月末	2025年9月末	増減額	主な増減
流動資産	5,601	5,343	△257	
（現金及び預金）	663	406	△256	
（売掛債権）	3,112	3,145	33	
（棚卸資産）	1,662	1,643	△19	
固定資産	2,480	2,785	305	SACHEM社アジア事業+141、ナガセダイアグノスティックス+104
（投資有価証券）	720	795	74	
資産の部合計	8,081	8,129	47	
流動負債	2,695	2,766	70	短期借入金+113
（買掛債務）	1,512	1,432	△80	
固定負債	1,321	1,342	21	
負債の部合計	4,016	4,108	92	
株主資本	3,117	3,101	△16	
その他の包括利益累計額	873	845	△27	為替換算調整勘定△76
非支配株主持分	74	73	△0	
純資産の部合計	4,064	4,020	△44	
運転資本	3,262	3,356	94	
自己資本比率	49.4%	48.5%	△0.9ppt	
有利子負債	1,753	1,884	130	
NET D/Eレシオ	0.27	0.37	0.10	

連結キャッシュ・フロー計算書

- ▶ 投資CFはSACHEM社のアジア事業、ナガセダイアグノスティックスの取得等により357億円の支出
- ▶ 財務CFは成長投資の実行にあたり負債調達を行った一方、自己株式の取得および配当金の支払い等により34億円の支出
- ▶ グループ内資金を有効活用し、成長投資へ一部充当したことから、現金及び現金同等物は256億円の減少

	(億円)	
	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	119	162
（税金等調整前四半期純利益）	230	212
（有形・無形資産償却費）	89	94
（運転資本の増減）	△88	△78
（その他）	△111	△65
投資活動によるキャッシュ・フロー	△108	△357
（固定資産投資）	△76	△348
（その他）	△32	△9
フリーキャッシュ・フロー	10	△194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110	△34
（自己株式取得による支出）	△94	△118
（配当金の支払い額）	△50	△54
（借入金・社債の増減）	43	144
（その他）	△8	△6
換算差額	△9	△27
現金及び現金同等物の増減額	△109	△256

2025年度 通期業績見通し(変更あり)

- ▶ 以下の状況を踏まえ、経常利益までの通期業績見通しを上方修正(売上高～経常利益)
- ▶ フード関連ビジネスはPrinovaグループの製造業における新規案件獲得と効率化推進によるコスト削減が想定以上に進捗
- ▶ 自動車関連ビジネスは一部のEV関連顧客の生産台数減少により、機能素材・機能部品の販売が想定を下回る
- ▶ 半導体関連ビジネスはナガセケムテックスのAIサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂販売が、米中関係により市場の先行きが不透明であるものの、半導体材料の販売がグレーターチャイナ向けを中心に想定以上に好調に推移しており、概ね想定通り
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益については、中国において想定以上に事業撤退に係る費用を要しており、据え置き

※数理差異の償却による退職給付費用：2024年度 約35億円(益)、2025年度 約3億円(損)

	2024年度 実績	2025年度 見通し (修正前)	2025年度 見通し (修正後)	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	9,449	9,550	9,640	190	2.0%
売上総利益	1,733	1,810	1,830	96	5.5%
<利益率>	18.3%	19.0%	19.0%	0.6ppt	—
販売費及び一般管理費	1,342	1,415	1,423	80	6.0%
営業利益	390	395	407	16	4.1%
<利益率>	4.1%	4.1%	4.2%	0.1ppt	—
(数理差異の償却による退職給付費用影響除く)	355	398	410	55	15.5%
経常利益	383	385	406	22	5.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	255	315	315	59	23.1%
US\$レート (期中平均)	@ 152.6	@ 143.0	@ 148.0	@ 4.6 円高	
RMBレート (期中平均)	@ 21.1	@ 19.0	@ 20.6	@ 0.5 円高	

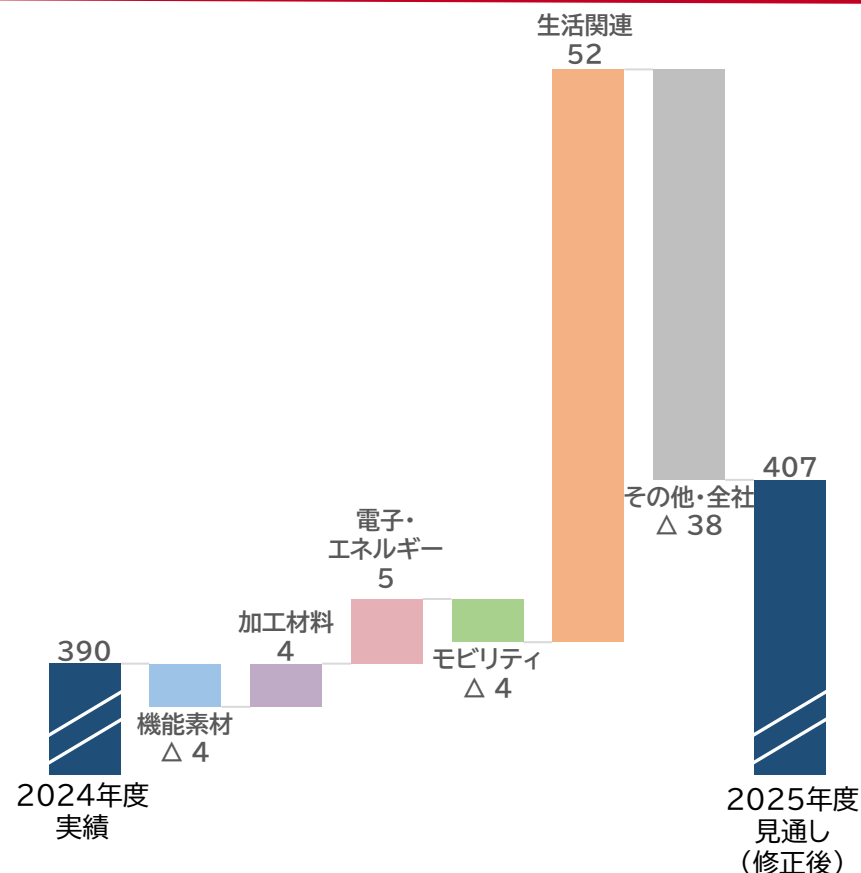
※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

2025年度 セグメント別業績見通し(変更あり)

- ▶ 機能素材は、自動車・建材向け塗料原料の販売が低調な一方、半導体材料の販売が堅調に推移することにより、据え置き
- ▶ 加工材料は、上期に関連業界が想定以上に好調だったことを受け、上方修正
- ▶ 電子・エネルギーは、ナガセケムテックスのAIサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が米中関係により市場の先行きが不透明であるものの、半導体材料の販売がグレーターチャイナ向けを中心に想定以上に好調に推移しており、据え置き
- ▶ モビリティは、一部のEV関連顧客の生産台数減少により、機能素材・機能部品の販売が想定を下回り、下方修正
- ▶ 生活関連は、Prinovaグループにおける食品素材の販売が想定通りに推移したことに加え、製造業における新規案件の獲得と効率化による想定以上のコスト削減を受け、上方修正

		(億円)			
		2024年度 実績	2025年度 見通し (修正前)	2025年度 見通し (修正後)	増減額 (前期比)
機能素材	売上高	1,537	1,570	1,570	32
	売上総利益	325	328	328	2
	<利益率>	21.1%	20.9%	20.9%	△0.3ppt
	営業利益	92	88	88	△4
	<利益率>	6.0%	5.6%	5.6%	△0.4ppt
加工材料	売上高	2,106	2,110	2,080	△26
	売上総利益	261	270	272	10
	<利益率>	12.4%	12.8%	13.1%	0.6ppt
	営業利益	66	69	71	4
	<利益率>	3.2%	3.3%	3.4%	0.2ppt
電子・エネルギー	売上高	1,613	1,670	1,670	56
	売上総利益	400	434	434	33
	<利益率>	24.8%	26.0%	26.0%	1.2ppt
	営業利益	123	129	129	5
	<利益率>	7.6%	7.7%	7.7%	0.1ppt
モビリティ	売上高	1,320	1,300	1,280	△40
	売上総利益	165	164	158	△7
	<利益率>	12.5%	12.6%	12.3%	△0.2ppt
	営業利益	42	42	38	△4
	<利益率>	3.2%	3.2%	3.0%	△0.2ppt
生活関連	売上高	2,870	2,899	3,039	168
	売上総利益	581	612	636	54
	<利益率>	20.2%	21.1%	20.9%	0.7ppt
	営業利益	34	73	87	52
	<利益率>	1.2%	2.5%	2.9%	1.7ppt
その他・全社	売上高	1	1	1	△0
	売上総利益	△0	2	2	2
	<利益率>				△462%
	営業利益	32	△6	△6	△38
	<利益率>				△119%
連結合計	売上高	9,449	9,550	9,640	190
	売上総利益	1,733	1,810	1,830	96
	<利益率>	18.3%	19.0%	19.0%	0.6ppt
	営業利益	390	395	407	16
	<利益率>	4.1%	4.1%	4.2%	0.1ppt

セグメント別 営業利益見通し 増減(億円)



※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

2025年度 主要製造子会社の業績見通し(変更あり)

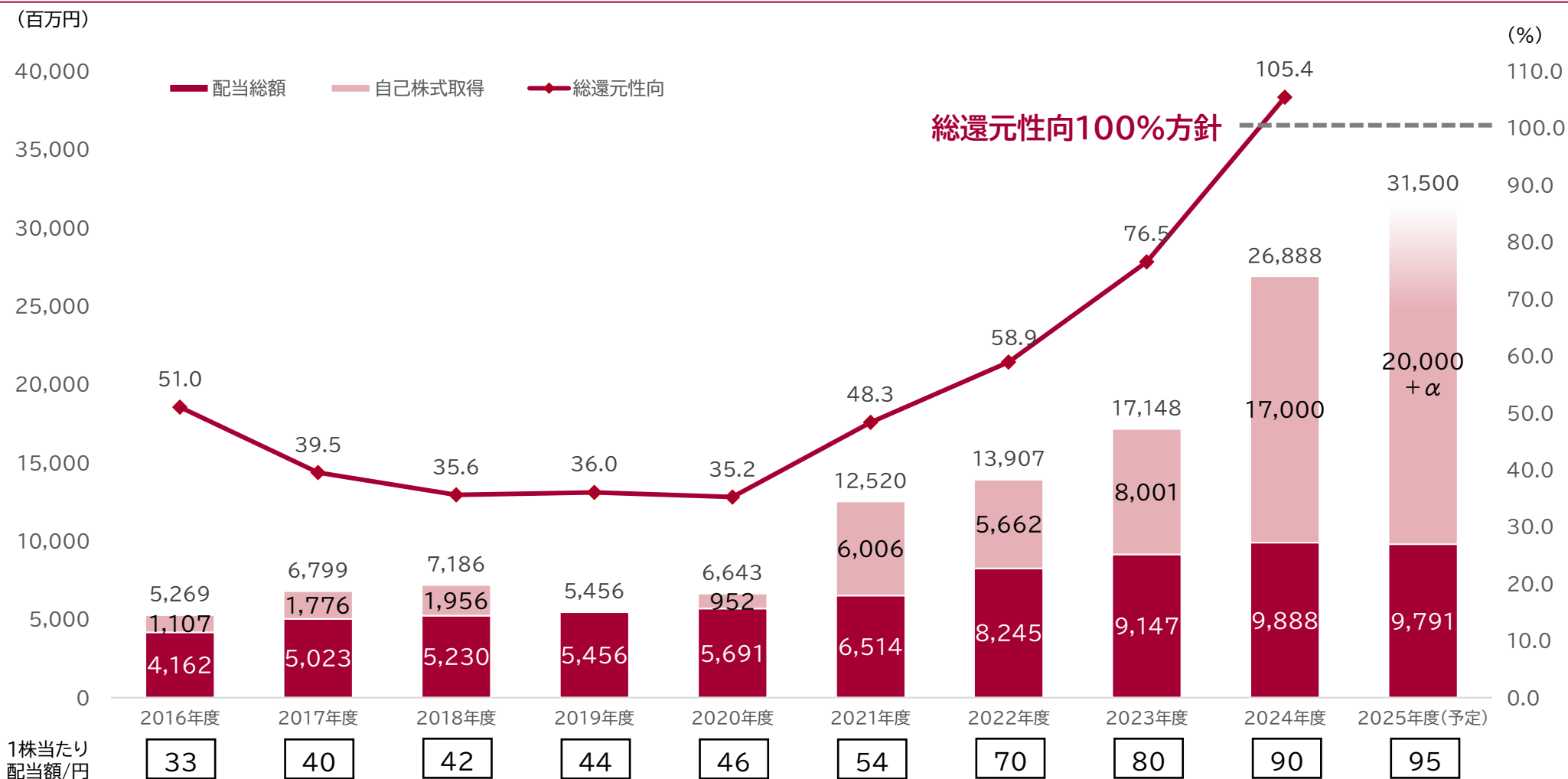
- ▶ ナガセケムテックス: AIサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が米中関係により市場の先行きが不透明であることに加え、モバイル機器向けが想定以上に低調に推移していることを受け、下方修正
- ▶ ナガセヴィータ: 食品素材および香粧品素材の販売は、季節性として下期は上期比で販売が減少傾向にあることも踏まえ、通期で想定通りに推移することを見込み、据置き(無形資産償却の一部終了に伴う前期比増益影響:約11億円)
- ▶ Prinovaグループ: Solutions事業が新規案件獲得により想定を上回り好調に推移していることに加え、Nutrition事業において効率化施策が進捗しコスト削減が想定以上に進捗していることにより、上方修正

		(億円)				
		2024年度 実績	2025年度 見通し (修正前)	2025年度 見通し (修正後)	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)
ナガセケムテックス	売上高	258	292	284	26	10%
	売上総利益	84	103	99	14	17%
	<利益率>	32.8%	35.3%	34.9%	2.1ppt	－
	営業利益	27	36	33	5	20%
	<利益率>	10.6%	12.5%	11.6%	1.0ppt	－
ナガセヴィータ	売上高	350	365	365	15	4%
	売上総利益	129	141	141	12	9%
	<利益率>	37.0%	38.8%	38.8%	1.8ppt	－
	営業利益	50	53	53	2	5%
	<利益率>	14.4%	14.5%	14.5%	0.1ppt	－
	のれん等償却費	29	18	18	△11	－
Prinovaグループ	償却費負担後営業利益	20	34	34	14	68%
	売上高	1,996	1,997	2,532	536	27%
	売上総利益	295	320	397	101	34%
	<利益率>	14.8%	16.0%	15.7%	0.9ppt	－
	営業利益	25	49	62	36	139%
	<利益率>	1.3%	2.5%	2.4%	1.2ppt	－
Prinovaグループ	のれん等償却費	27	26	27	△0	－
	償却費負担後営業利益	△1	22	34	36	－

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

株主還元状況

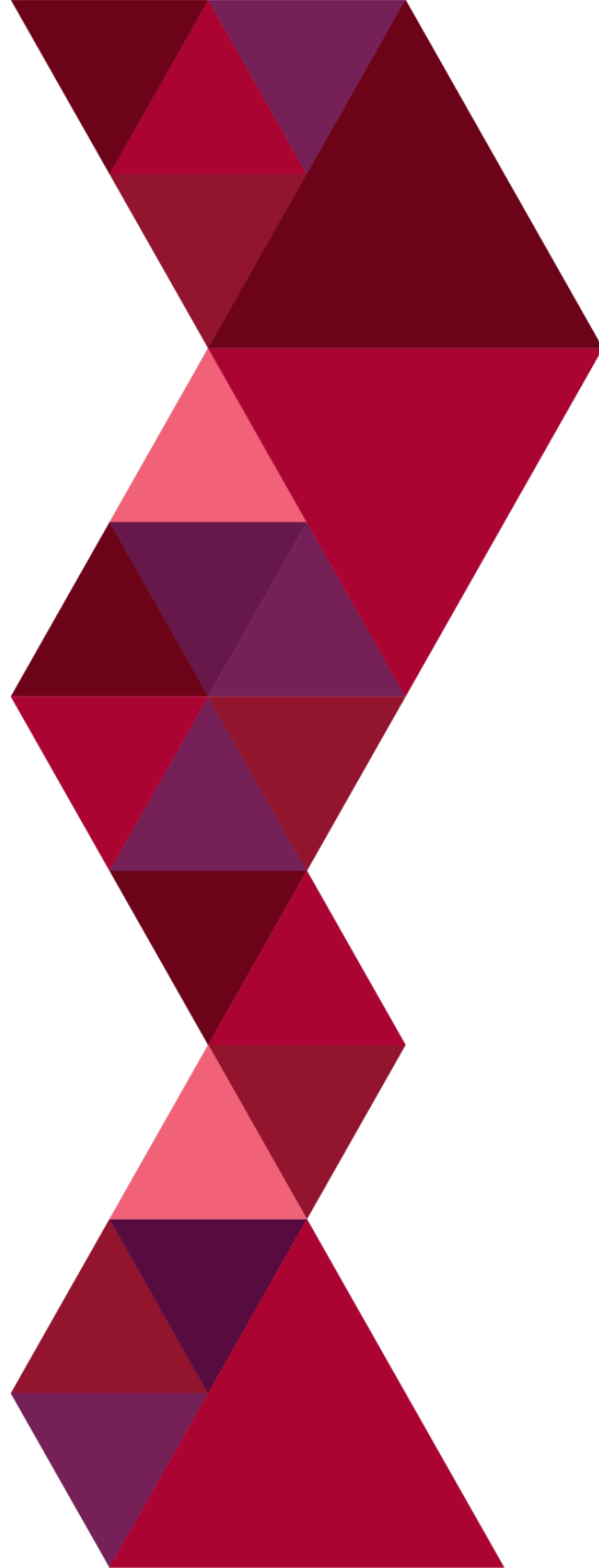
- ▶ 2025年度の1株当たり配当金は中間45円、期末50円の年間95円を予定(16期連続増配見通し)
- ▶ 2024年度に引き続き、2025年度においても総還元性向100%の方針に変更なし
- ▶ 2025年5月に決議した120億円の自己株式取得は、10月で完了
- ▶ 2025年11月に80億円の自己株式取得を決議(期間:2025年12月~2026年1月を予定)



※ 2025年度の期末配当金は、2026年6月開催予定の第111回定時株主総会に附議予定です。

中期経営計画 **ACE 2.0**について

■ 中期経営計画 ACE 2.0 基本方針	P25
■ ACE 2.0 (QUICK WIN)の状況	P26
■ 将来に向けた成長戦略	P27
■ 改善領域 2025年度の進捗	P28
■ フード分野の取組み	P29
■ 半導体分野の取組み	P30
■ ライフサイエンス分野の取組み	P31
■ 中期経営計画 ACE 2.0 のKGIの見通し	P32



中期経営計画 ACE 2.0 基本方針

ビジネスをデザインするNAGASEへ

ACE 2.0“質の追求”

A（主体性） C（必達） E（効率性）のマインドを持ち、
NAGASEの持続的な成長を可能にするため、

すべてのステークホルダーが期待する“想い”を 具体的な“形”（事業・仕組み・風土）として創出する
(質) (追求)

収益構造の変革

“ありたい姿”に向けた収益基盤の構築

- ① 収益性・効率性の追求
 - ・ 全社規模の事業入替と資源再配分の実施
- ② 既存事業の強化
 - ・ グローバリゼーションによる事業機会の拡大
 - ・ 製造業の生産性向上と技術革新による付加価値の拡大
- ③ “持続可能な事業”の創出

企業風土の変革

“ありたい姿”に向けたマインドセット

- ① 経済価値と社会価値の追求
 - ・ サステナビリティマインドの醸成と財務／非財務情報のモニタリング徹底
- ② 効率性の追求
 - ・ 資本効率性への意識の深化
 - ・ コア業務の生産性の向上
- ③ 変革を推進する人財の強化

変革を支える機能

- ① DXの更なる加速
- ② サステナビリティの推進
- ③ コーポレート機能の強化

ACE 2.0 (QUICK WIN)の状況 ～変革のための土台作り～

Quick Winとして進めてきた施策により ACE 2.0で掲げる”質の追求”が進んだ

事業・財務ポートフォリオの進化

現場力の強化と資本効率性の向上

- ・成長戦略を更新、注力分野を再設定(フード・半導体・ライフサイエンス)
- ・売上総利益率を向上
- ・不採算事業の整理(Sofix、Inkronなど)
- ・総還元性向100%の実施

経営ガバナンスの強化

経営の効率化と意思決定のスピードアップ

- ・事業部の再編(11事業部⇒7事業部)
- ・バイオ、ケミカル分野におけるグループ会社の再編
- ・会議体の見直し

人財ポートフォリオの再構築

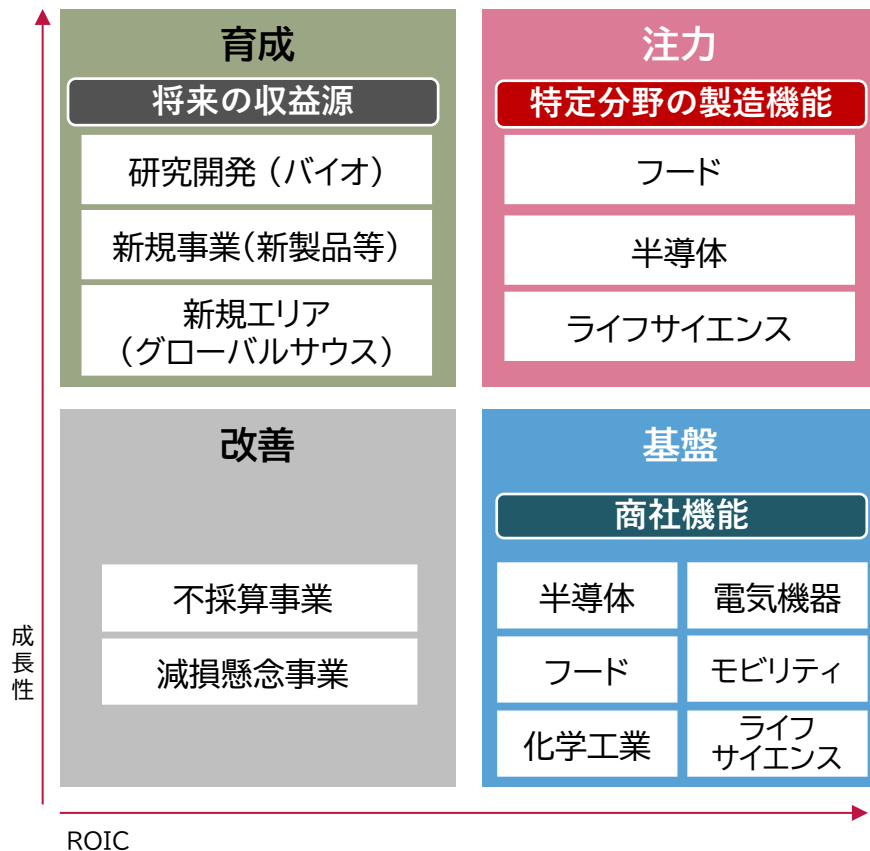
人的資本の最大化とエンゲージメント向上

- ・事業部CHRO(Chief Human Resource Officer)制度の導入
- ・マネジメント主導によるエンゲージメント向上
(N-meet up、書生制度、社内決算説明会、社長メッセージの定期配信)

将来に向けた成長戦略

注力領域である製造機能(フード・半導体・ライフサイエンスの3分野)に積極投資し、中長期的な利益規模・利益率の向上を狙う

**注力・育成領域に対する潜在的投資額
約800億円 (M&Aや設備投資)**



基盤

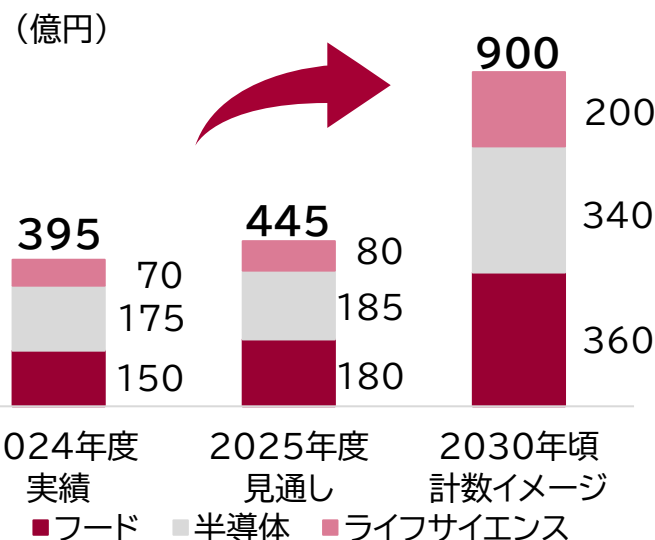
注力領域と育成領域の強化に繋がるキャッシュと付加価値の高い情報を獲得

育成

将来の収益源となる分野で、新たなチャレンジを進める

注力

注力領域の売上総利益を概ね倍増やす



改善

損失を削減

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

改善領域 2025年度の進捗

光学デバイス向け機能性材料の開発・製造を行うInkron Oyの譲渡により営業損失を削減

- ▶ Radiant Opto-Electronics Corporationと株式譲渡契約を締結し、2025年10月に約10億円で譲渡完了
- ▶ 2024年度の営業赤字は約2億円

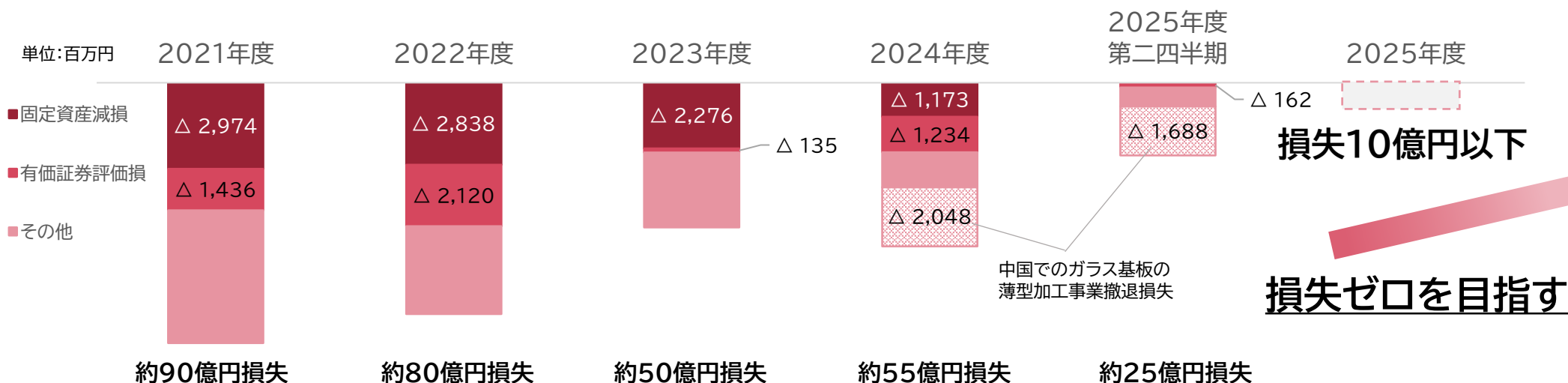
改善対象・取組み

- 1.事業子会社の営業損失および関連会社の持分法損失
- 2.減損損失懸念資産
- 3.不採算取引

早期に改善プランを策定し、実行。改善が見込めないものは撤退検討

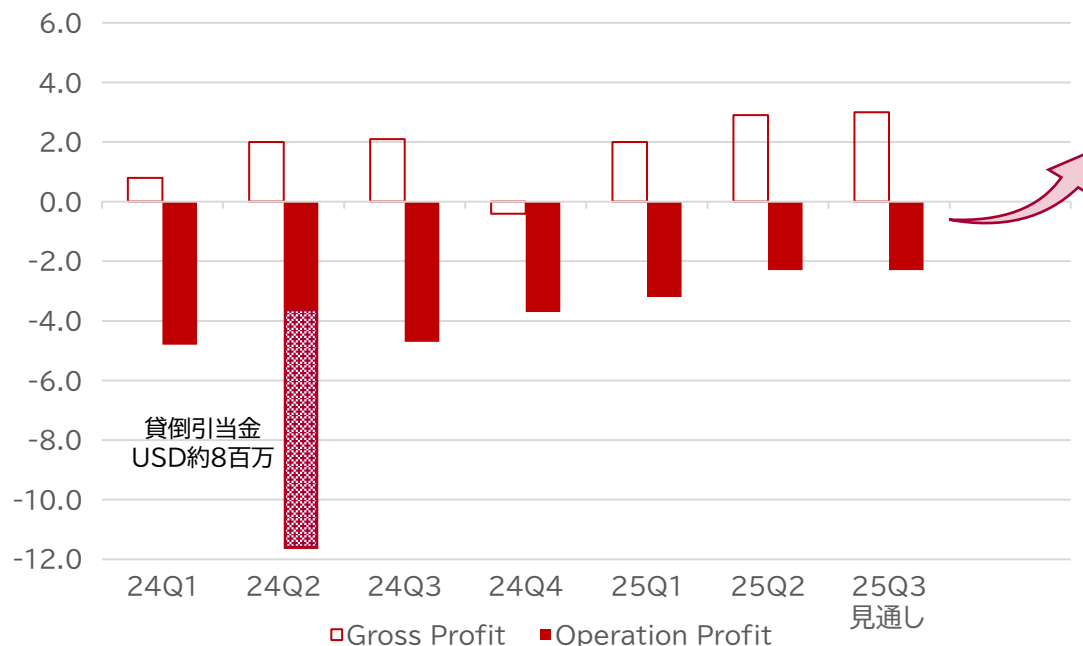
全件リストアップしモニタリング。改善が見込めないものは商権返上

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



フード分野の取り組み ～Prinovaグループ Nutrition事業の状況～

Nutrition事業の収益回復 USD百万



	FY24				FY25		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3 見通し
売上総利益	0.8	2.0	2.1	△0.4	2.0	2.9	3.0
営業利益	△4.8	△11.7	△4.8	△3.7	△3.2	△2.3	△2.3

■効率化による原価低減を実行

- ・人員体制の最適化
- ・原料調達/サプライチェーンの合理化
- ・製造工程の見直し/自動化設備の効率的運用

コスト削減を進め更なる収益性改善を目指す

■トップラインの改善に向けた取り組みを実行

- ・営業体制再構築/営業人材の獲得
- ・製品開発体制の強化/製品開発人材の獲得
- ・スティックパック等の製品ラインナップの強化/推進

新規ビジネス獲得に必要な機能を再整備し更なるレベルアップを目指す

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

※ Prinovaグループは12月決算(1月～12月)となり、当社連結決算に3ヵ月期ズレで取り込んでおります。

半導体分野の取組み ～SACHEM社のアジア事業～

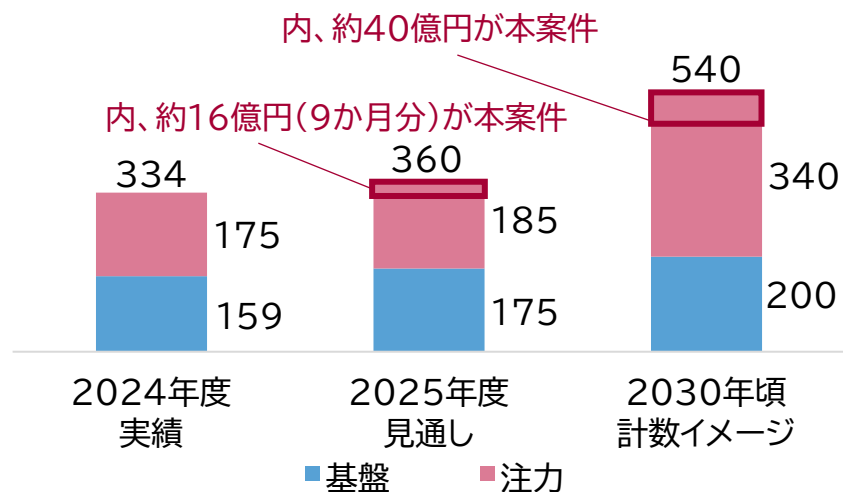
- ▶ SACHEM 社のアジア地域における半導体用高純度化学品事業を101M\$で取得、2025年6月にグループ入り(PL連結は第2四半期から)
- ▶ TMAH※をはじめとする各種ケミカルの高純度化技術、現像液の回収・再生技術、次世代プロセスケミカルの開発体制を獲得
- ▶ 2030年頃に売上総利益約40億円を目指す

※ 半導体やフラットパネルディスプレイの製造工程で使用する現像液テトラメチルアンモニウムヒドロキシド



事業規模

半導体分野の売上総利益 (億円)



シナジー効果

- ・ 新たな技術と製品をグループポートフォリオに追加し、従来ナガセケムテックスが保有していた技術・製品群と併せて半導体素材メーカーとしての領域を拡大
- ・ 超高感度分析技術、電解技術、精製技術を活用し取引先とともに次世代半導体前工程における新素材を開発



PMIの進捗

- ・ NAGASEグループから5名を新会社に派遣
- ・ 11個の分科会を立ち上げ順調に進捗



事業成長に向けた取組み

- ・ NAGASEグループのネットワークを活用しTMAHをはじめとした高純度化学品をグローバルに展開
- ・ 半導体工場へのTMAHの回収装置販売と再生TMAHの販売を2026年度中に開始予定



无锡三开高纯化工有限公司の工場



現像液の回収・再生タンク

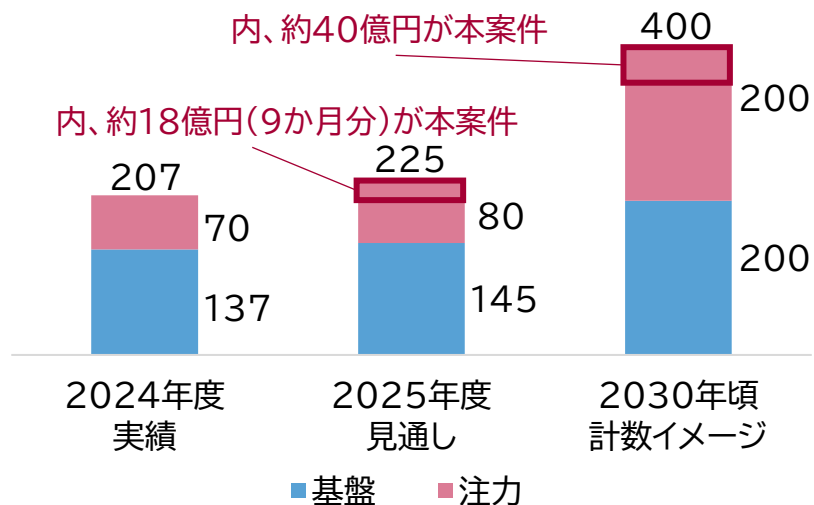
ライフサイエンス分野の取組み ～ナガセダイアグノスティックス～

- ▶ 旭化成ファーマ社の診断薬用酵素事業等を承継、ナガセダイアグノスティックスとして、2025年7月にグループ入り
- ▶ 診断薬、診断薬用酵素およびその他ライフサイエンス原料の開発、製造および販売を行う
- ▶ 2030年頃に売上総利益約40億円を目指す



事業規模

ライフサイエンス分野の売上総利益（億円）



シナジー効果

- ・ 微生物・酵素ポートフォリオ拡大により、バイオ関連製品(酵素、酵素反応物、発酵生産物)の開発力を強化
- ・ ナガセケムテックス・ナガセヴィータの低エンドトキシン、エルゴチオネインに関連する事業にGMP工場である大仁工場活用を検討



PMIの進捗

- ・ NAGASEグループから7名を派遣
- ・ 11個の分科会を立ち上げ、PMIが順次完了



事業成長に向けた取組み

- ・ 診断薬用酵素を新市場であるブラジル・ASEAN・インドで展開、海外販売で事業成長を狙う



ナガセダイアグノスティックス株式会社の大仁工場

中期経営計画 ACE 2.0 のKGIの見通し

KGI達成見込み



今後も持続的な資本効率性の向上と
成長戦略の実行により
PBR1倍超の早期実現を目指す

中期経営計画 ACE 2.0 “質の追求” の目標指標(KGI:Key Goal Indicator)

施策	指標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 見通し	2025年度 KGI
資本効率性の向上	ROE	5.9%	7.7%	6.6%	5.9%	6.4%	8.0%	8.0%以上
収益力の拡大	営業利益	219億円	352億円	333億円	306億円	390億円	407億円	350億円



■株主・投資家向け会社案内(初回対話の方向け)

<https://www.nagase.co.jp/ir/library/pdf/factbooks/20250804-1.pdf>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

当プレゼンテーション資料には、2025年11月6日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

資本コストや株価を意識した経営

中期経営計画最終年度において、引き続き取組みを推進する

企業価値向上に向けた方針

中期経営計画 ACE 2.0で掲げる成長戦略、財務・資本戦略の遂行

現状の課題認識

- 2007年度以降**PBRは1倍割れ**の状態
- 株主資本コストは投資家との対話から**8.0%以上**(CAPMの活用や投資家への聞き取り実施により随時把握)
- 純資産に対する政策保有株式の割合が13.9%と引き続き高水準

取組み事項

収益性・効率性

- ・ ROIC経営の浸透:売上総利益率および資本回転率の向上
- ・ 改善領域における不採算事業・不採算取引を削減
- ・ 政策保有株式の段階的な削減

資本コスト

- ・ 株主還元拡充:2年間限定で総還元性向100%
- ・ 成長投資における負債の活用

IR活動

- ・ 積極的な情報開示、投資家との対話を拡充

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

四半期実績							(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	通期見通し (修正後)	進捗率
							24年度実績	
売上高	当期	2,373	2,424			4,797	9,640	50%
	前期	2,392	2,417	2,370	2,269	4,809	9,449	
	増減率	△ 0.8%	0.3%			△ 0.3%	2.0%	
売上総利益	当期	443	465			909	1,830	50%
	前期	437	442	432	420	879	1,733	
	増減率	1.3%	5.3%			3.3%	5.6%	
<利益率>	当期	18.7%	19.2%			19.0%	19.0%	
	前期	18.3%	18.3%	18.2%	18.5%	18.3%	18.3%	
製造	当期	177	197			375		
	前期	168	174	161	165	342	670	
商社	当期	265	268			533		
	前期	269	267	270	255	537	1,062	
営業利益	当期	102	108			210	407	52%
	前期	107	103	99	80	210	390	
	増減率	△ 4.5%	4.7%			0.0%	4.1%	
<利益率>	当期	4.3%	4.5%			4.4%	4.1%	
	前期	4.5%	4.3%	4.2%	3.6%	4.4%	4.1%	
製造	当期	34	39			74		
	前期	24	16	19	21	40	81	
商社	当期	67	68			136		
	前期	83	86	80	59	169	309	

※ 製造は製造子会社の合計値となります。

※ 商社は長瀬産業および販売子会社の合計値に加え、その他・全社、連結調整を含めております。

※ 当期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

2025年度のキャッシュアロケーション

有利子負債およびグループ内資産の活用により、成長投資と株主還元の双方を推進

キャッシュイン

資産入替

- ▶ 政策保有株の縮減等
- ▶ グループ内キャッシュマネジメントによる現預金の活用

有利子負債の調達拡大

- ▶ 格付け維持が可能な範囲で調達

営業CF
265～
300億円

資産入替
140億円

借入
560億円

企業価値
最大化

成長投資
410億円

その他投資
240億円

株主還元
315～
350億円

キャッシュアウト

成長投資

- ▶ 公表済みのM&Aの実行
- ▶ 数百億円規模のM&Aは逐次検討
- ▶ 注力領域3分野の特定機能の強化、ミッシングパーツを獲得
- ▶ 育成領域でCVCやグローバルサウスへ投資等

株主還元

- ▶ 継続増配・総還元性向100%
- ▶ 純資産は4,000億円前後でコントロール

※ 成長投資に運転資本、DX・研究開発費等の投資(費用等)は含めておりません。

2021年度～2024年度の主要なキャッシュイン・アウト実績

(単位:億円)

キャッシュ・イン	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	4カ年累計	キャッシュ・アウト	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	4カ年累計
調整後営業CF※	525	363	476	515	1,879	配当・自己株式取得	124	139	178	270	713
政策保有株式売却等による収入	92	96	71	35	296	DX・研究開発等への投資	71	68	78	69	288
運転資本の減少	—	—	330	—	330	運転資本の増加	631	200	—	82	913
有利子負債の増減による収入	401	—	—	96	498	有利子負債の増減による支出	—	25	234	—	260
その他収入	7	9	9	30	57	その他の成長投資等	156	173	188	161	679
						その他支出	25	20	76	29	150
合計	1,026	469	888	678	3,062	合計	1,008	628	756	613	3,005

※ 運転資本の増減、費用計上されているDX・研究開発費等の影響を控除した営業CF

Prinovaグループの事業概要

商社業

Aromas



価値

香料などを食品・ニュートリション市場へ安定供給

Ingredients



2000品目以上の食品素材を食品・ニュートリション市場へ安心の品質・価格にて安定供給

主要な取扱品等

【主要取扱品】
香料、エッセンシャルオイル、アロマ素材

【主要取扱品】
ビタミン類、アミノ酸、有機酸、食物抽出物、甘味料、うま味調味料、増粘多糖類、栄養強化剤、リン酸塩類

製造業

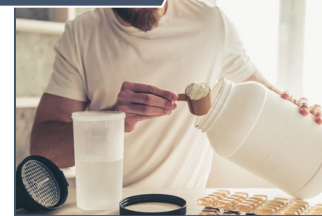
Solutions



プレミックス等を担い、豊富な素材を組み合わせ、顧客ニーズに合わせソリューションを提供

【主な事業】
液状のカスタマイズプレミックス、アミノ酸プレミックス、ビタミン・ミネラルプレミックス

Nutrition



企画提案から完成品製造までワンストップでソリューションを提供

【主な事業】
スポーツニュートリションの企画・処方/フレーバー設計・品質保証・レギュレーション対応から最終製品製造まで担う

Flavors



専門の調香師が開発する確かなフレーバーを提供（グループ内製造の付加価値）

【アプリケーション例】
製菓（グミ、チョコ、キャンディ等）、飲料（清涼飲料等）、乳製品（アイスクリーム、ヨーグルト）、製パン（ミックス粉）